

第1回 登別市立図書館移転推進委員会 議事録

開催概要

日 時 令和8年5月25日（金） 18:00～19:15

場 所 市民会館2階 中ホール

1 開会

教育委員会教育部図書館が進行

2 あいさつ（教育長）

- ・現在の図書館は、施設の老朽化や設備の課題、多様化する市民ニーズへの対応など、多くの課題を抱えている。
- ・2026年2月に公表した方針に基づき、15年から20年後を目途に新図書館の建設を目指す。喫緊の課題に対応し、図書館機能を向上させるため、新館建設までの間、「登別中央ショッピングセンターアーニス」へ移転する。
- ・各委員の立場から忌憚のない意見と今後の図書館整備の有意義な第一歩となることを期待する。

3 委員長・副委員長の選任について

（1）委員長の選任について

櫻井委員（登別市校長会）を推薦する声上がり、全会一致で櫻井委員が委員長に選任される。

【以降は、委員長が進行】

（2）副委員長の指名について

委員長より、登別市図書館移転推進委員会設置要綱第4条の規定に基づき、大野委員（登別市文化協会）を副委員長に指名。

指名時点で大野委員は不在だったが、議事進行中に参加、了承。

4 議事

(1) 図書館の現状とこれまでの経緯等について

別紙資料により事務局が説明

(主な説明内容)

ア 図書館の基本理念と方針

図書館が目指すべき姿や運営理念を定めた「登別市立図書館の目指すもの」は、アーニスへの移転後もその本質は変わらない。

イ 現状と課題

現図書館（本館）は老朽化、耐震性の確保、バリアフリーへの対応など、複数の運営上の課題を抱えている。

ウ 移転決定までの経緯と移転によるメリット、課題

- ・ これまでの経緯と移転決定から新築に向けた想定を説明。
- ・ 移転のメリット
床面積が約1.5倍に拡大。
耐震性の確保、駐車場の確保。
駅やバス停に近く、アクセスが向上。
- ・ 想定される課題
商業施設特有の静寂性の確保。
図書館利用者と近隣テナント双方への配慮。
床の耐荷重への配慮。

エ 本委員会の役割について

- ・ 限られた施設条件という範囲の中で、各機能の優先順位やフロア形成を議論する。
- ・ 学校や市内各種団体からのヒアリングを行い、ニーズを整理して「移転プラン案」を検討する。
- ・ 最終的に意見書を作成し、教育委員会へ提出する。

⇒質問なし、異議なく終了。

(2) 今後の予定について

別紙資料により事務局が説明

(主な説明内容)

ア 委員会の開催規模とスケジュール

- ・ 全5回を予定（月1回ペース）。令和8年10月末の基本計画策定を目指す。
- ・ 7月に公募型プロポーザルで事業者（委託業者）の選定を実施。委員も選定作業に参加する。
- ・ 第4回委員会（秋頃）から事業者が参加し、専門的知見から助言を行ってもらう。

イ 今後の予定

- ・ 7月中旬を目処に地元学生や市内各団体へのヒアリングとニーズの整理する。
- ・ 9月下旬を目処にニーズの整理に基づき、必要な機能を検討。受託業者のプラン案を基に具体的な施設構成を議論し、教育委員会へ「意見書」を提出する。
- ・ 教育委員会が意見書を踏まえて「移転基本計画（案）」をまとめ、本委員会への再意見聴取、図書館協議会への諮問、パブリックコメントを経て基本計画を策定する。

ウ 委員会での協議内容（予定）

- ・ アーニスへの移転自体は決定しているため、「どのような施設・機能が必要か」「どのような使い方ができるか」という、ソフト面や使用方法（機能面）の話し合いが中心となる。
- ・ 各所属団体等の意見集約への協力を委員への要望

⇒質問なし、異議なく終了。

(3) 追加協議（参加者の意見集約）

委員A

- ・ 過去の検討委員会の意見や市民・学生アンケートの結果を整理した資料があると議論しやすい。

委員B

- ・現図書館は車椅子や目の不自由な人が利用しづらかったため、自動ドア、車椅子対応トイレ、エレベーターの確保、通路を広く取るなど、障害のある方も含めたみんなに優しい環境を要望したい。

委員 C

- ・人が集まりやすい場、きらんのような大人が本を読みながら子どもを遊ばせられるような場を作ることが大事。

委員 D

- ・アーニスで買い物をされる方は平日で約2,000人、土日には約2,400～2,500人に上り、重複や買い物をしない人を除いても多くの人が日常的に利用してくれている。

委員 E

- ・整備検討委員会が出された意見の中でも、賛成派や容認派、アーニスへ移転することを期待している人たちの意見がとても重要になる。一人一人の意見を洗い出し、反映できたらより良い図書館が作れるのではないか。
- ・床面積を考えると、市民からの要望をすべて備えることはできない。スペースを取り過ぎてしまうと、蔵書数が減ってしまうのでバランスが大事だと思う。
- ・こどもたちは、友達と一緒にいれる空間を希望していると思われるが、図書館でボランティアをしている方は、静けさを求めているので、館内放送等を含め意見をくみ取ってもらいたい。

委員 F

- ・本市の蔵書数は本館で約14万冊（分館を含めると約15万冊）。
- ・1,500㎡に15万冊をすべて置くのは難しく、市民のくつろぎスペースや学習空間を優先すると、さらに本を置くスペースは狭まる。ただし、移転という「将来像」が決まれば、不要な本の除籍が進められる。また、入りきらない団体貸出用のストックや副本などは、他自治体のように学校の空き教室などを「別倉庫」として活用する工夫が必要だと思う。

委員長

- ・アーニスの移転予定フロアに防音設備を作ることは可能か。

教育部次長

- ・アーニスの移転予定フロアは構造上「吹き抜け」などもあり、全体を完全防音にすることは難しい。ただし、奥まった場所に軽い素材の防音壁や防音ガラスを使って「学習に集中できる静寂な部屋」を作る工法は可能。

図書館長

- ・学生の傾向として友達と一緒に過ごせる空間や、おしゃべりしながら勉強できる場所、簡単な飲食ができるスペースを求める声が多い。
- ・建物の構造上40dB以下には下がらないこと、完全な防音室（個室ブース等）の設置には多額のコストがかかるため、予算とのバランスが必要である。

委員G

- ・本が好きな人だけでなく、商業施設を訪れる多様な人々が本や文化に触れ合える居場所になるのは非常に楽しみである。人口減少の中で、子どもたちのサードプレイス（居場所）になってほしい。

委員長

- ・次回は、今回の協議内容のまとめと昨年実施したアンケートの意見等を基に協議したい。
- ・委員会での協議内容については、外部への発信も行っていきたい。
- ・委員には、所属する各団体の意見の集約をお願いしたい。

5 その他

- ・ 次回の開催日程について（令和８年６月２４日水曜日）
- ・ 本市のペーパーレス化推進のため、次回から情報提供等はメールにて実施する。

⇒委員からの質問、意見なし

閉会

１９時１５分 閉会

以上